

祭光

764号

2026年1・2月
日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<https://den-church.jp/>

祈りと賛美

ヤコブの手紙 五章一三節

牧師 山北宣久

教団、聖書日課のみ言葉が垂直に臨む。
「あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。」

苦しんでいる人、喜んでいる人が取り上げられる。それは、私たちは苦しいと言っては神から離れ、嬉しいと言っては神を忘れる傾向を強く持つからだ。

そうしたおぼつかなさ、移ろいやすさを身に帯びる私たちに「祈りなさい。賛美の歌をうたいなさい。」と勧められる。それは、そうすることにより、神と結びつき、自分自身を見失わないで済むことになるからである。

まず、祈りについてであるが、祈りが神に向かう心であるならば、祈りは単なる願いに留まっていなさい。単なる願望には意志がない。真の祈りは心から発するものである以上、それは志を与える。そして志は、決断をも含む

ものだ。

主イエス・キリストをとおして、神が共に居給うて、祈る者を励まし、導いてくださるならば、この苦しみを貰いて断乎生き抜こうとの意思と決断を祈りは与える。

心は志を、志は決断を、決断は行動をもたらす。これが祈りの筋道となる。だから、宗教改革者J・カルヴァンは言った。「真実の祈りは、ひざまずいていた膝が立ち上がって歩き出すところまでを含んでいる。」

「苦しんでいる人は、祈りなさい。」
こうして、このみ言葉は、祈りが苦しみを過ぎ越させるだけでなく、苦しみの中で人は鍛えられ、祈りによって新しく創造されることをも告げるものとなる。

さらにみ言葉は臨む。「喜んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。」
喜んでいる人、それは物質的にも健康的に

も恵まれていた状態を表す。そうなる人は往々にして慢心し、神の恵みと人の恩による今の幸いということを忘れ易い。

「賛美の歌をうたいなさい。」神に対する賛美こそ、一切の自己賛美を廃棄させる道である。

神を賛美しない人は、必ず心のどこかで自分を賛美し、憧れの人を礼賛し人間中心主義に陥る。そして傲慢、自慢、高慢に流れ、神と自分を失う。

神の憐れみと主の慈しみゆえに今日在るを得ている。それゆえに神を称え、その恵みに力強く応え、その幸いを分かち合う方向に生きていこうと決意し、身を起すこと、これが賛美となる。

試練、試みというものは苦しい時のみのこととは限らない。喜びの時も試練となる。何故なら、喜びの中、舞い上がり有頂天になって自分を失うことがあるからだ。

喜びの中で神を賛美し、この恵みなり祝福なりを周囲に流していくことによって人は試練に打ち勝ち、成長する。

主イエスが私たちを執成し、支え、導いてくださる。そして罪の報酬としての滅びと死を免れさせ、私たちを愛するゆえに、永遠の命を与えてくださる。

だから、心を常に神に向け、健やかなる時も病める時も、順境の時も逆境の時も、その時ならではの恵みを味わいつつ生きるのだ。

(二〇二六年二月八日 夕の公同礼拝)